

令和元年 12 月 25 日

座長談話

日本酒のグローバルなブランド戦略に関する検討会 座長 小泉 武夫

日本酒は日本固有の文化であり、国民からも憧れを持って飲まれてきた。近年では海外への輸出額も増加しており、世界からも熱い眼差しが向けられている。

世界中の酒文化の中でも、日本酒は、最も難しい製造工程を有し、日本固有の国菌である麹菌を使用する等、特筆すべき文化を持っている。

このような日本酒の魅力・文化を、ユネスコ無形文化遺産である和食や、さらには海外における食文化とも連携しながら、より一層世界に向けて戦略的に発信していくことが重要である。

来年、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、また、2025 年には大阪にて日本国際博覧会が開催される。

これらの世界的なイベントの開催は、海外において日本の文化が強く認識されるきっかけともなり得、この機会に日本酒を世界に大きく発信することは、我が国の文化や経済にとっても、非常に大きな意味を持つものである。

こうした観点からも、「日本酒のグローバルなブランド戦略に関する検討会」が開催され、中間とりまとめを行ったことは非常に大きな意味のあることであった。

今般の中間とりまとめに基づき、日本酒のグローバルな展開については、国家的なプロジェクトの一環として、引き続き取り組んでいただきたい。